

〔発行者〕二所ノ関部屋後援会

〈発行〉〒273-0037

千葉県船橋市古作4-13-1

〈協力〉スポーツニッポン新聞社

第79号

二所ノ関部屋

「最後の杵」滑り込んだ27歳勝ち越し

一山本が5月の夏場所10勝を挙げ、7月の名古屋場所(名古屋市内、ドルフィンズアリーナ)で新人幕を果たした。現師匠の弟子として5人目、二所ノ関部屋になってからは初の幕内力士となった。一山本は東前頭17枚目で迎えた名古屋場所でも奮闘。終盤連敗したものの、千秋楽に勝ち越しを決めた。公務員から転身した27歳。秋場所(9月12日初日、両国国技館)でもさらなる活躍が期待される。

「自分の展開で相撲が取れた」「連敗後の最終日に決めた」

部屋としては5人目の幕内力士が2年ぶりの名古屋で躍動した。7勝7敗で迎えた千秋楽。一山本は千代ノ皇を送り出して破って、初めての幕内で勝ち越した。9日目に王手をかけたが、5連敗。難産の末に給金を直し「本場に良かった。うまく自分の展開で相撲が取れていた。(千秋楽も)気持ちを楽に取れた」とホッとした表情を見せた。

夏場所は東十両8枚目で10勝。通常なら入幕できる成績ではなかったが、十兩上位で勝ち越した力士が少なかったため「最後の杵」に滑り込んだ。新人幕会見では「名古屋場所での新人幕を決めるつもりだったのでびっくりした。突いて前に出る相撲で、まず一番勝てれば、その積み重ねが勝ち越しにつながる」と意気込みを示していた。北海道出身では現役で番付最上位として臨んだ名古屋場所、序盤から好調で、公務員出身の異色力士として脚光を浴びた。初日は相撲巧者の石浦(宮城野)に「はりま投げ」の奇手で白星発進。8日目は実力者の魁聖を破

新入幕で山本

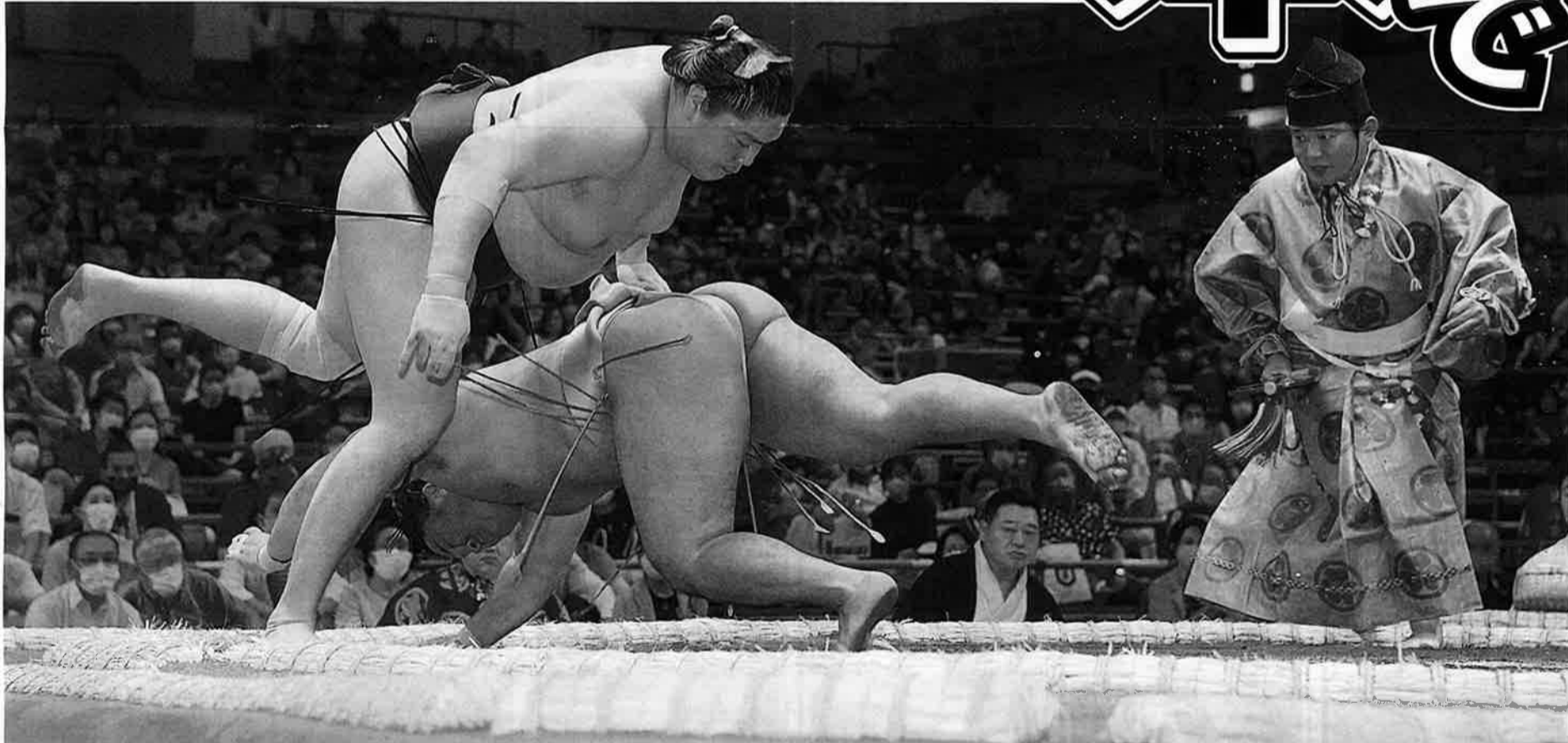
◆一山本の名古屋場所◆

日	戦	決まり手	相手
初	○	はりま投げ	浦国山翔龍良聖丸若鷲士強心皇
2	○	はりま投げ	石千碧剣徳宇大魁千琴玉宝照板千
3	○	はりま投げ	代ノ 勝 奄 代ノ 富ノ代
4	○	はりま投げ	石千碧剣徳宇大魁千琴玉宝照板千
5	○	はりま投げ	代ノ 勝 奄 代ノ 富ノ代
6	○	はりま投げ	石千碧剣徳宇大魁千琴玉宝照板千
7	○	はりま投げ	代ノ 勝 奄 代ノ 富ノ代
8	○	はりま投げ	石千碧剣徳宇大魁千琴玉宝照板千
9	○	はりま投げ	代ノ 勝 奄 代ノ 富ノ代
10	○	はりま投げ	石千碧剣徳宇大魁千琴玉宝照板千
11	○	はりま投げ	代ノ 勝 奄 代ノ 富ノ代
12	○	はりま投げ	石千碧剣徳宇大魁千琴玉宝照板千
13	○	はりま投げ	代ノ 勝 奄 代ノ 富ノ代
14	○	はりま投げ	石千碧剣徳宇大魁千琴玉宝照板千

り6勝目を挙げた。喉輪で攻めた後、引いてしまえば後退したが左へ回り込んで体を入れ替え、素早く出て寄り切り。「重たくて押せなかったが、いろいろと考えた前に出られた」と冷静に振り返った。9日目は185kgの千代丸と右四つに組み、1分半かけて寄り切って勝ち越しに王手をかけた。

中大相撲部から千代の山、千代の富士の2横綱を生んだ北海道福島町の役場に就職した。教育委員会の仕事に従事。子供たちには相撲を教え「引いてはいけない」と伝えてきた。悪癖の引き技を減らし、前に出ることを心掛ける姿勢が実を結んだ。

場所中はSNS上で、しこ名の「一」が勝星の数に応じて変化することを案じていた。7勝目をマークした後は「一八」山本になれるように頑張る」と宣言。終盤は失速したものの公約は果たした。来年1月に定年の65歳の誕生日を迎える師匠、二所ノ関親方(元大・関若嶋津)のためにも、少しでも番付を上げるのが目標。快進撃はまだまた続きそう



◆新入幕会見一山本に聞く◆

—入幕を決めた今の心境は。

「新年の目標に掲げていたので、それを達成できてうれしいです」

—東8枚目からの昇進です。

「今場所(名古屋)で頑張ろうと思っていたので、聞いてびっくりしました」

—先場所(夏場所)の連勝締めが結果的には良かった。

「最後、しっかり勝ち切れた。2桁勝利が良かった」

—幕内の印象は。

「立ち合いの速さ、大きさ、全てが今までとは違うと思っています」

—改めて番付の自身の名前を見て。

「ようやく大きくなったのかな」

—4年半かかりました。

「自分のふがないことでケガをして、しっかりケアをして上げてくれたのは良かった」

—幕下に落ちた時は。

「自分のせいなので、仕方ないと思って1場所を出ようと思っていたが、親方、おかみさんから周囲の意見で2場所休んだ。それが良かった」

—最近は何つ相撲も取るようになった。

「たまたまだったと思う。しっかりと取れているのはいい」

—体重はもっと大きくなりました

「急に増やしてもケガにつながるので、徐々に大きくなれば」

—社会人から入門して幕内まで行きました。

「夢の半ばなので、今の所は順調には来ているのかな」

—北海道は相撲どころ。

「地元も元気がないというか落ち込んでいる部分もあるので、少しでも元気を与えられれば」

—幕内で意識したい相手は。

「大栄翔関は同じ学年で突き押しなので、対戦してみたい」

—年齢制限が緩和されての入門。

「同級生から1年遅れて入っているの、1場所でも早くという気持ちはいつも持っていました」

名古屋場所初日、石浦をはりま投げで破った一山本(写真はベースボール・マガジン社)の表紙に使用された一山本の写真(岩内後援会提供)



◆一山本全成績◆

年	場所	位置	成績
2017	初春夏名秋九	前相撲	1番出世
		東序15	7戦全勝
		東二10	6勝1敗
		東三49	6勝1敗
		西幕57	6勝1敗
		東幕26	4勝3敗
2018	初春夏名秋九	東幕21	5勝2敗
		東幕11	5勝2敗
		東幕5	4勝3敗
		東幕3	3勝5敗
		西幕5	1勝6敗
		西幕26	4勝3敗
2019	初春夏名秋九	西幕19	4勝3敗
		東幕13	6勝1敗
		東幕3	5勝2敗
		東幕13	9勝6敗
		東十9	9勝6敗
		東十6	0勝2敗13休
2020	初春	西幕5	全休
		西幕28	5勝2敗
		西幕25	5勝2敗
		西幕13	4勝3敗
		西幕8	5勝2敗
2021	初春夏名	西幕3	4勝3敗
		西十14	10勝5敗
		東十17	10勝5敗
		東前18	8勝7敗

◆二所ノ関部屋(前身松ヶ根部屋)の幕内力士◆ ※2021年名古屋場所時点

力士名	本名	初土俵	新入幕	在位	幕内成績	最高位
若光翔	三浦太平	90年夏	00年九	2場所	13勝17敗	東前14
若 救	中尾浩規	95年九	01年夏	3場所	17勝28敗	東前12
松ノ山	春山竜尚	92年春	04年春	4場所	16勝29敗15休	東前10
松ノ山	山谷裕也	06年春	11年九	50場所	346勝404敗	東小結
一山本	山本大生	17年初	21年名	1場所	8勝7敗	東前17

岩内後援会の「たら丸」化粧まわし好評

〇…一山本の活躍に地元の北海道岩内町でも大いに盛り上がっている。このほど、同町の広報紙「いわない」7月号の表紙に登場。岩内後援会から送られた化粧まわしを締めた姿が好評だ。まわしには、同町のマスコットキャラクター「たら丸」が描かれており「新入幕おめでとう！一山本関 名古屋場所での活躍をみんなでお祝いしよう」と紹介されている。



59年力士育った「名所」仏地院「最後の夏」

土俵の鬼 初代・若乃花の宿舎
 新型コロナウイルスの感染拡大で、大相撲は昨年春場所から無観客や開催中止などが続き通常開催が行われていない。全協会員を対象にワクチン接種やPCR検査の実施に加え不要不急の外出禁止など感染予防を徹底。観客は政府の方針に基づき、収容可能人数の50%以下に制限し開催されているが、7月には名古屋場所が1年4カ月ぶりの地方場所として実施された。それでも名古屋への相撲列車は運行されず、番付発表は東京で実施。各部屋ごとに場所直前に移動し、千秋楽を終えると速やかに帰京するなど「異例」の措置を取った。

二所ノ関部屋は例年通り名古屋市中区白区の仏地院を宿舎とし、幕内・一山本ら所属力士が由緒ある稽古場で稽古に励んだ。同院は1962年、初代・若乃花の二子山部屋が名古屋場所の宿舎に構えた場所。92年から若乃花の花籠親方(元関脇・太寿山)が約20年間宿舎を構え、2015年から現二所ノ関親方(元大関・若嶋津)が二所ノ関部屋の宿舎とした。弟子の若嶋津はもちろん、2代目・若乃花、隆の里をはじめ、二所一門の力士、最近では稀勢の里らも連合稽古で汗を流すなど名古屋場所の「名所」だった。宿舎を提供して59年。現師匠の定年を機に来年以降は宿舎としての役割を終えることになる。「最後の夏」はコロナ禍のため稽古見学が禁止されるなど寂しいものとなったが、関係者は半世紀の歴史の重みを名残惜しそうにかみしめていた。



松鳳山
 夏 東十6☆8-7
 名 西十1★5-10
 久しぶりの名古屋でしたが初日から連敗…。秋場所は初日からいい相撲を取りたい



一山本
 夏 東十8☆10-5
 名 東前17☆8-7
 名古屋場所は終盤連敗したが勝ち越せて良かった。千秋楽も気持ちよく取れた



島津海
 夏 東下8☆4-3
 名 西下5★2-6
 名古屋場所の悔しさを忘れず、秋場所に生かします



若錦翔
 夏 東三28★2-5
 名 東三52☆4-3
 先場所は勝ち越ししてから2連敗したので来場所は勝ち越してからも勝てるように



若ノ藤
 夏 西三58★3-4
 名 東三71☆6-1
 地元で6勝できたのは良かった。来場所は今の勢いそのまま勝ち越して幕下に戻りたい



今福
 夏 東三44★1-6
 名 東三83★全休
 名古屋は全休しました。早く土俵に復帰できるように、頑張ります



若山中
 夏 東三86★1-6
 名 東二18★2-5
 先場所は自分の力を出し切れなかった。来場所は全て出し切って優勝できるように



中石
 夏 東三91★全休
 名 西二51★全休
 3場所連続で休みました。出来るだけ早く膝を治し、復帰して関取目指して頑張ります



石原
 夏 西二84☆4-3
 名 東二50★全休
 (名古屋場所は無念の全休)ケガ(腰痛)をしっかり治して来場所は勝ち越したいです



若一輝
 夏 西二77★3-4
 名 東二91☆4-3
 先場所は最後の相撲で悪いところがでた。来場所は修正して5番以上勝てるように



有川
 夏 東二95★全休
 名 東序17☆4-3
 今場所は4勝と不甲斐ない成績だったので来場所は5番以上勝てるように頑張ります

島津海「悔しさ」胸に
 ○…名古屋場所では幕下5枚目まで番付を上げた島津海は2勝に終わった。一番相撲で時栄(時津風)に敗れると4連敗で早々と負け越し。その後、2勝したものの「悔しさを忘れず、生かします」と悔しい思いを口にした。夏場所から本名から師匠にもゆかりのあるしこ名をいただいている。秋場所は番付を下げることになるが、師匠の最後の場所(22年初場所)までに関取昇進を決めたいところだ。

松鳳山 幕内復帰へスタートダッシュを
 ベテランの松鳳山には悔しい「夏」となった。5月の夏場所では5勝7敗から終盤の3連勝で勝ち越し。名古屋場所では西の筆頭まで番付を上げ、37歳での再入幕のチャンスが広がった。場所前の稽古も「調子は良かった」というが、序盤でつまづいた。だが、初日から歯車がかみ合わず、6連敗。7日目ようやく初日を出したものの、11日に大奄美(追手風)に敗れ負け越し。「初日から連敗してしまっただけで情けない相撲が多かった。もっと集中していい相撲取るようにしたかった」と終盤粘って5勝10敗で終え、秋場所は幕内復帰の可能性も残る位置にはとどまった。「秋場所は連敗しないように初日からいい相撲を取りたい」と地元の九州場所での入幕へ再チャレンジする。

二所ノ関六男	湊	川	松	ケ	根	放	駒	式守錦太夫	式守慎之助	床	平	松	男	呼	呼	床	山	マ	ネ	ジ	ヤ
日高 六男	南 忠晃	安本 栄来	岡部 新	押田 裕光	水谷 洋二	平島 和之	美根 禎弘	朝倉 悟	松原 弘一	青菜 恭孝											
1957年1月12日	1956年10月29日	1974年4月19日	1977年9月15日	1973年4月29日	1976年7月31日	1958年5月28日	1976年4月3日	1977年6月17日	1969年8月25日	1963年10月16日											
鹿児島県熊毛郡	福井県大野市	東京都江戸川区	福島県西白河郡	千葉県柏市	鹿児島県	東京都江東区	埼玉県さいたま市	静岡県湖西市	愛知県豊田市	愛媛県吉野町											